

2015 年を振り返る

毎朝レポートを書いているが（11月中旬から3週間ほど入院などで中断）、この1年を振り返りたくなった。これも歳のせいだろうか。

まずは国内外の動きから。「テロとの戦争」が世界を揺るがすなかで、戦後70年を迎えた。安保関連法という「戦争法」が9月19日未明に強行可決された。わが誕生日あたりが攻防ヤマ場であり、なんとも落ち着かなかった。戦後70年にして、あらためて「戦後」が問われた1年であった。安保・立憲主義だけでなく、沖縄辺野古、原発再稼働、「大阪都構想」、消費税軽減税率、マスコミ問題など、見過ごせないことが多かった。腹が立ち、せめて「情報発信」しようと、レポートや「マスコミ評」などを書き続けてきた。フェイスブックにも投稿するようになり、すぐに「反応」が分かり励みになる。

愛用している手帳に、「しごと」「読んだ本」の欄を設けている。昨年に続き、読んだ本は多かった。「蔵書の苦しみ」から、あまり本を買わないようにしている。そのため名大図書館にある本を利用したり、家にある本をじっくり再読することが多い。

「しごと」の方はあまり芳しくない。まとまった仕事ができないまま、時が流れた。怠けていたわけではないが、「目標」を明確にするなど来年の課題としたい。とりわけ印象に残る仕事として、不動産協会での講演、戦後70年「特別番組」コメンテーター、地方議員研修会講師、そして人間文化研究所シンポジウムなどだ。それぞれに力を入れて準備し、相互に関連づけ論文にまとめることができた。退職2年目だが、どうやって自分の「居場所」、仕事の拠点をつくるかが悩ましい。この先どこを拠点にして、どう生きていくのか、まだはっきりしない。「小さな世界」に閉じこもりがちなのも、改めていきたい。でも、あまり焦らず、前向きに生きていくことだ。

先日亡くなった沢井余志郎さんをはじめ、お世話になった人が生涯を閉じた。それと昨年の石川さんにつづいて、2人の元同僚が亡くなった。3人とも50代の若さだ。10歳まで生きられるかと言われた自分が、67年も生きている。戦後70年、「戦後」とともに生きてきた「自分史」を考えることも多くなった。引き続き考えていきたい。別れとともに、「出会い」もいくつかあった。京ちゃん一家と出会ってから2年ほどになるが、2月から鍼灸に通うようになり、交流も深まった。京ちゃんから元氣をもらい、教育や学校のあり方を考えさせられることが多い。



この1年を1枚の写真で示すと、「危機の中にひとすじの光」か。目の網膜の手術も影響しているかもしれない。「もうまく」にしたい。

(2015年12月31日)